

「あいちの自然観察会」実施報告 『萩』三昧で秋を満喫！初立池公園自然観察会

東三河支部 星野 芳彦

当支部主催で、あいち観察会にあたる「初立池(はったちいけ)公園自然観察会」が10月3日(日)に田原市で催されました。今年度もコロナの影響で中止が相次ぎ、やっと開催にこぎつけることが出来ました。

初立池とは、伊良湖岬手前の堀切町にある豊川用水の調整池です。水源から約百キロの旅を終えた水は、中心遮水壁型アースダムによって貯められ、灌漑用水としてこの辺りの農業を支えています。周辺は、緑地公園として整備され、散策や自然観察にもってこいの隠れた絶好のポイントです。さらに、辺りの雑木林はサシバなど渡り鳥の休憩スポットにもなっています。

初立池は、中央構造線 MTL と並行する断層に沿ってできた谷の地形を生かして作られ、岩石の露頭やダムの堰堤からの眺望からその様子が見て取れました。また、風の通り道を生かして風力発電の風車が設置され、正に「風の谷」となっていることも参加者一同納得の内容でした。

万葉集にあるように、山上憶良が秋の七草を詠んだ旋頭歌の冒頭には、まず「萩の花」が登場します。今回の観察会では、瀧崎さんのガイドによる、「ハギの花」探しが圧巻でした。僅か、2時間の散策で、ツクシハギ、マルバハギ、トウクサハギ、マルバツクシハギ、ヤマハギ、ネコハギ、メドハギの何と7種ものハギのなかまを観察しました。まさに「ハギ三昧」！



▲ツクシハギ



▲マルバハギ



▲トウクサハギ



▲ヤマハギ



▲ネコハギ



▲メドハギ

この他には、ゴンズイ、ノブドウ、ハクサンボク、ナツフジ、モチノキ、ハスノハカズラなどの草や木の実も堪能。



▲ゴンズイ

一方、池の裏手には、カワウの繁殖地があるらしく、独特の鳴き声が聞こえました。また、足元には、ホンドキツネの糞やイセノナミマイマイ、ニッポンマイマイ、ヤマタニシの貝殻が、また、見上げれば、枯れ木の幹にコゲラの巣穴を発見です。

渥美半島の自然の多様さと残暑の中にも季節の移ろいを感じられて、あっという間の2時間でした。

「渥美半島は、いいところだぞん！また、おいでんよ。待っとるでのん。」(東三河支部一同)